

基本評価シート

様式

北海道 留萌・小平区域

(北海道留萌振興局保健環境部環境生活課)

基本評価シート（ニホンジカ）

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	北海道指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画（ニホンジカ）		
	令和4年度エゾシカ指定管理鳥獣捕獲等事業委託業務（小平町富岡地域）		
都道府県名	北海道	担当者部・係名	保健環境部環境生活課 自然環境係
担当者名	橋本	担当者連絡先	0164-42-8436
捕獲実施事業者	株式会社構研エンジニアリング （認定を 受けている ・ 受けていない）	予算額（※2）	169,545,000円
		予算額の内捕獲に要する経費（※3）	68,729,000円

（※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業名ごとに記入。

（※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2 指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和4年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 （目標頭数などの数値目標）	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
30頭	頭	%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
69万頭※ （個体数指数：東部124、北部113、中部163、南部358）	東部：R8末に個体数指数50以下（H23を100） 北部・中部：R13末に個体数指数50以下（H23を100） 南部：R8末までに減少に転じさせる	設定していない
狩猟捕獲数	許可捕獲（有害）	許可捕獲（個体数調整）
34,118頭（R3）	29,806頭（R3）	77,437頭（R3）

※令和3年度推定生息頭数。東部（オホーツク、十勝、釧路、根室）、北部地域（空知、上川、留萌、宗谷）、中部地域（石狩、胆振、日高）の合計。南部地域（後志、渡島、檜山）は、これとは別に3～15万頭の間と推定

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

H9以降、道が策定した「エゾシカ保護管理計画」（H27以降「エゾシカ管理計画」）に基づき、狩猟期間の延長や可猟区域の拡大、雌ジカ捕獲制限の緩和、一斉捕獲の実施、モニタリングに基づく個体数指数を用いたフィードバック管理の推進等の対策を進めてきた。

2. 令和4年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	<p>小平町における令和2年度のエゾシカの農林業被害額は、前年比約1.5倍の約740万円と増加している。また、冬から春にかけて日本海に面した山の斜面にエサなどを求めてエゾシカの出没が多く見られ、エゾシカが関係する交通事故は平成30年以降、毎年10件以上発生している。</p> <p>これまで、小平町では、許可捕獲による有害鳥獣駆除を毎年実施しているものの、捕獲従事者の担い手不足等もあり、エゾシカ生息数の減少には至っていないと推察される。</p> <p>一方、日本海側気候の影響により冬季に多雪となりやすい留萌管内において、エゾシカの捕獲は銃器によるものが大部分となっている。そのため、銃器の使用が困難な時間帯や場所においても効率的に捕獲し、かつ捕獲した個体を有効活用できるようにするためにも、わなによる捕獲も推進していく必要がある。</p> <p>このことから、冬季にエゾシカが集中する地域において囲いわなを使った捕獲手法を実践し、多雪地域におけるエゾシカの効果的捕獲技術の検証を行う。また、地域における捕獲効率の向上やさらなる捕獲数の確保を図ることで、エゾシカが起因とする交通事故や農林業被害の低減を目指すものである。</p> <p>【選択欄】</p> <p><input type="checkbox"/> 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。</p> <p><input type="checkbox"/> 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 効果的な捕獲手法の開発を行なった。</p> <p>※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。</p>
人材育成の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 人材を育成するための配慮、取組がなされている。
実施期間	令和4年11月3日～令和5年3月17日（※委託期間）
実施区域	<p>小平町富岡地区</p> <p>小平町のほぼ中心部に位置している富岡地区は、西側は日本海に面し、海成段丘を形成する。東、南、北側は森林が広がっており、農地が点在する。</p> <p>日本海側から吹き付ける風の影響を受けやすい段丘の斜面は、高木の木本類が成立しにくく、草本類か矮小化したミズナラが優占する。また、段丘の東側はカエデ類を主体とする広葉樹やトドマツの植林地が広がっており、エゾシカの生息地としては良質と思われる。</p> <p>当該地に生息するエゾシカは、積雪の増加した期間は広範囲を移動することなく、風雪をしのげる森林内を避難場所にしつつ、周辺の森林や日本海に面した山の斜面の餌資源を利用しながら越冬していると思われる。小平町内の国道沿いの山の斜面は一日に300頭以上のシカが目撃されている。</p>
関係機関との協力	<ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人北海道猟友会留萌支部小平部会：捕獲手法や分析等の助言など効果的な事業実施に向けた連携を図る。 地方独立行政法人北海道立総合研究機構：同上。 地元市町村等：捕獲事業の情報共有を図る。
事業の捕獲目標	<p>（ 20 %達成）</p> <p>=（実績値6頭）／（目標値30頭）</p>

捕獲手法	<p>【銃猟】</p> <input type="checkbox"/> 誘引狙撃 <input type="checkbox"/> 巻き狩り <input type="checkbox"/> 忍び猟 <input type="checkbox"/> モバイルカリング <input type="checkbox"/> 夜間銃猟 <input type="checkbox"/> その他（ ）
捕獲個体の確認方法	<p>【わな猟】</p> <input type="checkbox"/> くくりわな <input type="checkbox"/> 箱わな <input checked="" type="checkbox"/> 囲いわな <input type="checkbox"/> その他（ ） ※1：各種猟法の定義は〇ページ参照、※2：複数チェック可
捕獲個体の処分	<p>捕獲個体の処分について</p> <input type="checkbox"/> 全て焼却又は埋設を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一部、食肉等への活用を行っている。 <input type="checkbox"/> 一部、放置を認めている。 ※複数チェック可
環境への影響への配慮	<p>わなによる錯誤捕獲について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の情報を収集している。 <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。
	<p>わなによる錯誤捕獲の未然防止について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策をしている。 （内容：毎日の見回りのほか、自動撮影カメラによる監視を実施。） <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策はしていない。
	<p>鳥類の鉛中毒等について</p> <input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。 <input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。
	<p>鉛製銃弾について</p> <input type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	<p>受託者が作成する「捕獲作業計画」において、連絡体制や実施体制、緊急連絡体制図、周辺住民等に対する周知体制、及び事故防止に向けた捕獲時の現地立ち入り規制体制等を記載させた。</p>
捕獲従事者の体制	<p>【雇用体制】</p> 捕獲従事者数： 6 人 （内訳） 正規雇用者： 5 人、期間雇用者： 1 人 日当制： 人

3. 令和4年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	<p>評価：捕獲目標頭数の20頭に達してはいないものの、わな構造や誘引方法の工夫により、多雪強風地域における効果的捕獲技術の検証を行うという</p>

	<p>点においては概ね目標を達成することができた。</p> <p>改善点：捕獲システムの誤作動により、設定頭数より多い頭数で囲いわなの落とし扉が閉まることで、保定や止め刺しが困難であった。そのため捕獲を実施する際には、捕獲可能地周辺のエゾシカの出没状況や捕獲地における電波状況等の現地確認、事前準備を十分に実施したうえで、捕獲頭数に対応できる捕獲体制を整えることが必要である。</p> <p>また、除雪誘導路や誘引餌による誘導は有効であるが、積雪状況や周囲の餌環境により誘導効果は大きく変わることを留意する必要がある。</p>
【実施期間】	<p>評価：1月からの捕獲開始前に馴化として1カ月程度、多様な餌による誘引を段階的に実施した。例年より降雪が少なく周辺に餌となるササが露出していたこともあり、誘引餌を採食する様子は当初確認されなかったが、2月に最深積雪が一般的なエゾシカのメスの体高(肩高)である95cmを上回った時期から、生息地内での餌の確保が難しくなったことでシカの飢餓状態が高まり、餌に誘引され、捕獲へとつながったと考えられる。</p> <p>改善点：誘引餌が効果を発揮するには、十分な馴化期間を設定するという前提に加え、シカの誘引餌に対する魅力や好奇心が警戒心を上回るかどうか重要であり、それには積雪状況や周囲の餌環境が大きく影響する。このことから、環境が変化するごとに誘引・捕獲の期間を十分に確保できるよう、事業実施期間の延長が必要である。</p>
【実施区域】	<p>評価：当該地域は、日本海側の急斜面に矮小化したミズナラが生育していることや段丘上には風力発電施設跡があることに加え、常に風が強いことから冬季間は吹き溜まりが発生しやすい場所である。そのため、冬季のエゾシカは広範囲を移動することなく、風雪をしのげる森林内を避難場所にしつつ、周辺の森林や日本海に面した国道沿いの山の斜面の餌資源を利用しながら越冬していると考えられ、自動撮影カメラによる調査では多い日で述べ100頭を超えるエゾシカを確認したことから、実施区域として適切であったと考える。</p> <p>改善点：町内の他地域において、国道法面強化事業に伴い禁猟区となっており、猟圧がかかっていないため多数の捕獲が見込める箇所が存在する。次年度の事業実施にあたっては、目標捕獲頭数の達成に向け、その箇所を含め実施区域の検討が必要である。</p>
【捕獲手法】	<p>評価：事前調査として、エゾシカの出没時間帯や移動経路等を把握するために、内陸側から海側に移動するエゾシカのルートに着目し、自動撮影カメラ調査及び痕跡調査を行った。</p> <p>捕獲手法としては、誤作動防止や安全管理のため小型囲いわなを用い、電波状況が悪い箇所であるため、カウント式の捕獲システムを利用した。わなは金属枠とパンチングメタル、コンパネを組み合わせた構造を採用し、強度を上げるとともにわな内部の防風効果を高め、約1カ月程度の馴化期間を設けたこ</p>

	<p>とで、シカにわな内部が安全なことを学習させ、捕獲することができた。</p> <p>また、積雪状況及びエゾシカの生息状況を踏まえ、除雪による誘導路の設置を行ったところ、現地確認及び自動撮影カメラから、誘導路をシカが利用していることが確認できた。</p> <p>改善点：囲いわなは機動性が低く、エゾシカの出没地域に合わせて移動することが困難であるため、より機動性の高いくりわななど複数種類の手法の組み合わせによる捕獲を検討する必要がある。</p> <p>また、落とし扉の誤作動により想定よりも多い頭数が捕獲され、止め刺しに苦慮することがあった。このことについて使用者が行える改善点としては、バッテリーを従来より高性能の物を使用することで昼夜の切替えをなくし、常時捕獲できる状態にすることやセンサーの設置位置を検討することなどが考えられる。また、根本的な解決方法としては、遠隔で監視しながら落とし扉を落とすシステムを使用するという方法もあるが、捕獲地の電波状況に依存するため、本地区では検討はしたものの実現には至らなかった。</p>
<p>2. 体制整備に関する評価及び改善点</p>	
<p>【実施体制】</p>	<p>評価：エゾシカ捕獲について豊富な事業実績を有する会社による受託であり、猟友会や北海道立総合研究機構との連携も図れたことから、十分な体制であったと考える。</p> <p>改善点：今後、コンソーシアムによる事業実施となる場合には、コンソーシアム構成員間の連絡調整体制を確実に構築させる必要がある。</p>
<p>【個体処分】</p>	<p>評価：捕獲した個体は、全て電気止め刺し器によって止め刺し後に各受け入れ先に運搬した。捕獲した個体のうち、有効利用に適さない個体は一般廃棄物として処理し、有効利用に適する個体はペットフード原料とし業者に運搬した。</p> <p>改善点：エゾシカを食肉として利用するためには止め刺し後 1 時間以内に食肉加工業者に搬入しなければならないが、留萌管内には食肉処理施設がないため、本事業で捕獲した個体は全て食肉として有効利用することは出来なかった。本事業においてペットフードとして捕獲個体の搬入を受け入れている浦臼町はジビエ利用モデル地区にも指定されており、近隣自治体で捕獲された捕獲個体の一次処理が可能な処理加工施設を有しているものの、食肉用に流通させるためには厳格な基準があるため、本地域で捕獲事業による有効活用率を向上させるためには、既存の食肉処理加工施設の有効活用や、養鹿施設やペットフード業者の配置や整備が望まれる。</p> <p>また今回は、システム誤作動により想定外に捕獲頭数が多くなったことで捕獲時に個体が怪我をし、有効活用に適さない状態となったため、捕獲手法や使用する捕獲システムの検討が必要である。</p>
<p>【環境配慮】</p>	<p>評価：小型囲いわなの落とし扉及び捕獲個体の止めさしについては、騒音を発生させない方法を採用した。</p>

	<p>改善点：当該区域では、同様の配慮を継続する必要がある。</p> <p>なお、本地区は一般狩猟者が立ち入り捕獲を行える箇所であり、現地確認においてエゾシカの狩猟残滓が確認された。残滓の放置は地域住民の生活衛生の悪化につながるほか、残滓に引き寄せられたヒグマによる人身被害が生じる危険性がある。安全管理上も留意する必要がある。</p>
【安全管理】	<p>評価：緊急連絡体制及び事故防止に向けた捕獲時の現地立ち入り規制体制を構築するとともに、看板等により周辺住民等に対する周知を行った。</p> <p>改善点：新たな捕獲手法を導入する場合は、適宜新たに適切な安全管理体制を構築する必要がある。</p>
<p>3. その他の事項に関する評価及び改善点</p> <p>当該地では依然として樹皮剥ぎが確認されることから、被害状況を緩和するためにも、より多くの個体を捕獲する必要がある。</p> <p>また、前年度は町内国道沿いの山の斜面において、終日多数のエゾシカが確認されたが、今年度は夜間にのみ特に多く出没し、年度によりばらつきがあることがわかった。実施区域におけるエゾシカの生態を把握し、時間帯による出没状況の変化に対応できるよう、捕獲体制や手法を検討することが望ましい。</p>	
<p>4. 全体評価</p> <p>銃器による捕獲が大部分となっている多雪強風地域において、小型囲いわなを用いた捕獲を実践し、わな構造や誘引方法を工夫することでエゾシカの効果的捕獲技術の検証を行うことができた。しかし、現地の電波状況や積雪状況、餌環境が誘導・捕獲効果に大きく影響するため、実施区域や捕獲手法の選定には注意を要するほか、捕獲期間中の状況変化に応じて捕獲方法を柔軟に変更できる体制を整えておく必要がある。</p>	

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

<p>留萌管内には、海岸沿いを中心に比較的規模の大きな越冬地が多く分布していることから、当該地において効果的捕獲技術を確立することは個体数管理の充実に大いに寄与するものと考えられる。今年度は本地区における事業の初年度であり改善点も見られるものの、次年度以降も事業を継続し、捕獲技術をブラッシュアップすることによる捕獲効率の上昇を期待する。</p>

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量	<input checked="" type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input checked="" type="checkbox"/> 事業区域ごと	

等の位置情報	<input checked="" type="checkbox"/> 5 km メッシュ <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ <input type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input checked="" type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報 （ ）	
③目撃数	<input checked="" type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	<input checked="" type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人日数※ <input checked="" type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 （わな稼働日数＝わな基数×稼働日数）	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する 上での課題	特になし

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

(2) 実施結果（必須となる記録項目）

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数※1： _____ 人日

事前調査人日数概数※2： _____ 人日

出猟（捕獲作業）人日数： _____ 人日

項目	令和 _____ 年 (事業年度の値)	令和 _____ 年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数	_____ 人日	_____ 人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数※1：71 人日

事前調査人日数概数※2：18 人日

出猟（捕獲作業）人日数：53 人日

項目	令和 4 年 (事業年度の値)	令和 年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基× 日数）	37 基日	基日	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項目	令和 4 年 (事業年度の値)	令和 年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	頭	頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②目撃数	頭	頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和 4 年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数※1	CPUE※2	SPUE※3
<input type="checkbox"/> 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 巻き狩り	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 忍び猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
-------------------------------------	---	----	---	---

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／のべ人日数

※3：SPUE＝目撃数／のべ人日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

②わなによる捕獲

項目	令和 4 年 (事業年度の値)	令和 年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	6 頭	頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	0.5		<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	0.5		<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和 4 年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※1	CPUE※2
<input type="checkbox"/> くくりわな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 箱わな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 囲いわな	6 頭	37 基日	0.16 頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1：わな稼働総数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

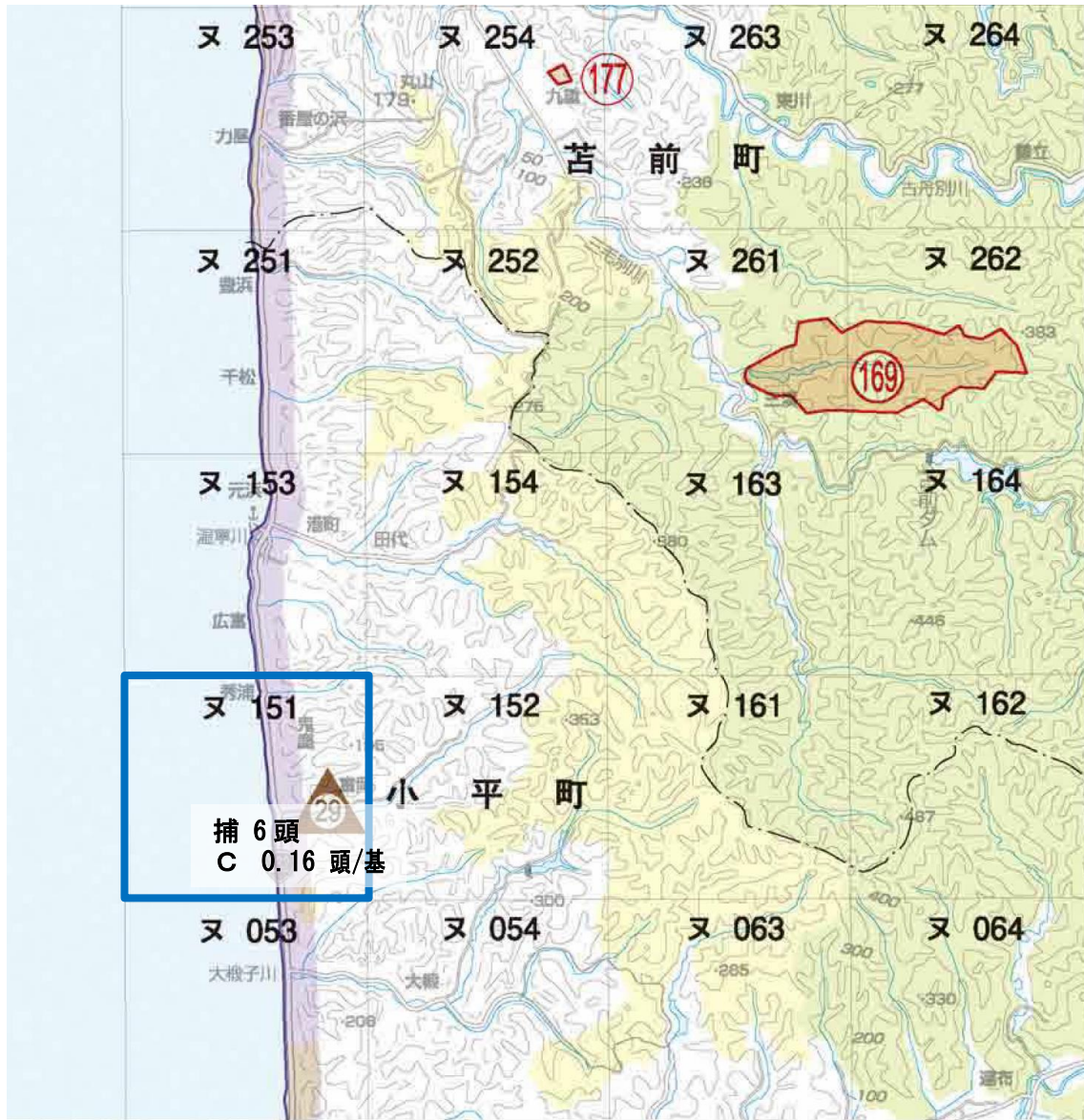
処理にかかる人工概数： 1.08 人・時間

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： 1 個体

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

捕獲実施日時を作業日報に記載するとともに、捕獲個体毎に捕獲個体記録票を作成している。
捕獲した個体の処理については、処分場の処理票または有効活用事業者の受取証の確認を行っている。

基本評価シート4（1）イ）に付随する概況図
 （留萌・小平地域）



北海道「令和4年度（2022年度）鳥獣保護区等位置図」より

【メッシュ番号】

又151：わな猟（囲いわな）

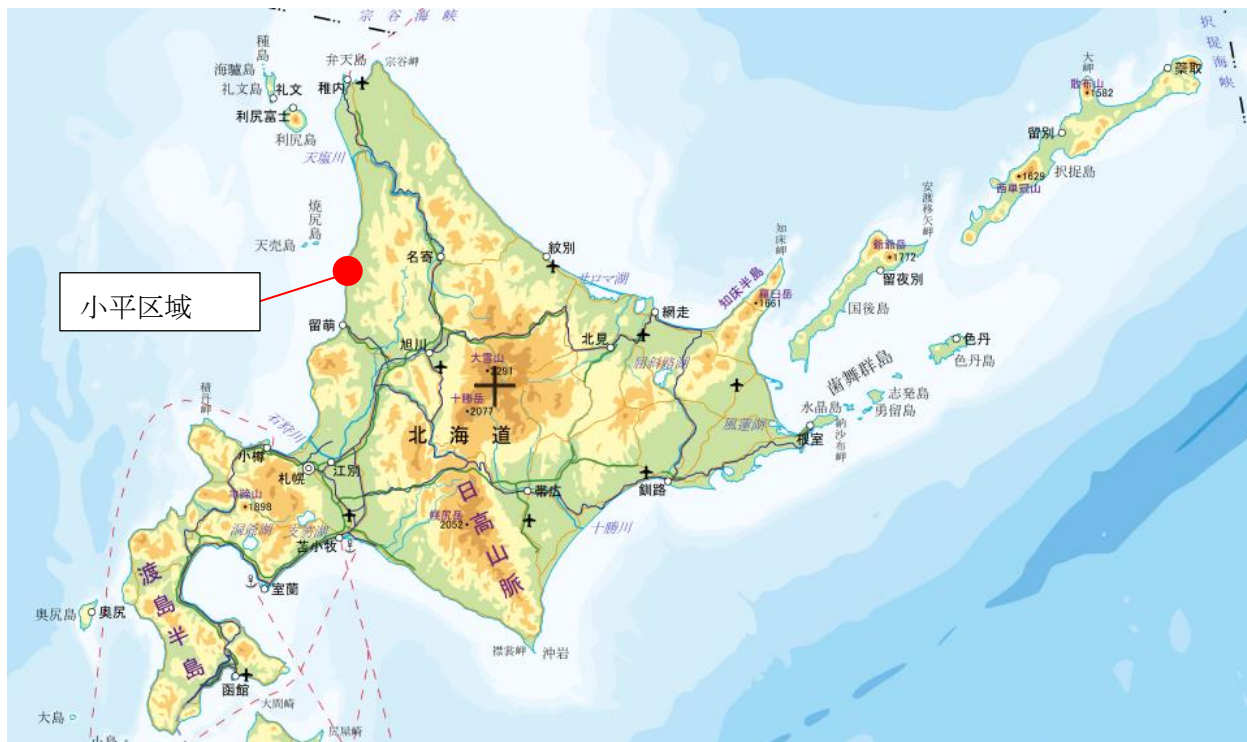
（凡例）

捕：捕獲数

C：CPUE

北海道指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画【小平区域】

【位置図】



【区域図】

